



気付いてほしい 大切な人の認知症

こんなことはありませんか？



年月や時間、自分がどこにいるのかが分からないことがある

- ✓ 歩ける距離でない場所へ歩いて行こうとする。
- ✓ 真夏なのにコートを着るなど、季節感のない服装をしてしまう。
- ✓ 予定の時間に合わせて準備することができない。



物事を考えるのに時間がかかる、判断するのが苦手になった

- ✓ 自動販売機、自動改札、銀行などのATMの前でまごまごしている。
- ✓ 一度に複数のことが理解できない。念を押して説明すると余計に混乱してしまう。
- ✓ 予想外の出来事があると、その場で判断できずパニックになる。



以前と比べて

性格が変わったように感じる

- ✓ 今までできていたこと(料理や片付けなど)ができなくなって自信を失い、元気がない。
- ✓ ずっと続けてきた趣味に興味を示さなくなった。
- ✓ ささいなことで怒りっぽくなった。感情の表現がうまくできず、攻撃的になった。



生活の基本的な動作に支障が出てきた

- ✓ 夜になって家の中が暗いとトイレの場所が分からなくなる。
- ✓ いつも通る道なのに、普段とは違う時間に外出したら迷子になってしまった。
- ✓ 衣類の脱ぎ着に戸惑うことがある。

高齢化が進む現在、65歳以上の約7人に1人が認知症を発症しており、2025年には約5人に1人が発症するといわれています*。
「自分には関係ない」と思っていますか？認知症は誰もがなりうるものです。症状は人それぞれなので、認知症に気付くきっかけもさまざま。あなたの大切な人に、気になる様子はありますか？

*内閣府平成29年度版高齢社会白書より

一人ひとり違う認知症。一番のサポートは“さりげなく、自然に”

地域包括支援センター羽田 社会福祉士 荻田悟史さん



認知症は、脳の細胞が死んでしまったり、脳の司令塔の働きに不都合が生じたりして、生活するうえでの支障が6か月以上継続して発生している状態をいいます。早期発見・予防は重要ですが、ちょっとした変化から認知症だと気付くのは難しいですね。気になることがあったらお近くの地域包括支援センターに相談してください。その人に合ったサポートを提案します。

認知症になってできなくなることがあったとしても、感情は最後までずっと残っています。うれしい気持ち、嫌な気持ちは認知症になってからも感じるし、忘れません。また、少しのお手伝いがあれば自分の力で地域活動や趣味などを楽しめる方もいらっしゃいます。ご本人がどうしたいかを大切に、さりげなくサポートしてほしいです。

気になることがあったら…

地域包括支援センターへ
お気軽にご相談ください



ご本人はもちろん、ご家族・地域の方からの相談を受け付けています。日常生活のちょっとしたことでもご連絡ください。

▲各センターの連絡先はこちら

大田区オレンジガイドで
利用できるサービスが確認できます

症状の進行に合わせた支援や相談窓口がわかります。地域包括支援センター・地域福祉課などで配布しています。



▲区HPからもご覧になれます

